

鯨で財を成した資産家の大豪邸

06 きゅう あおやまけ べってい

旧青山家別邸（主屋／文庫蔵／板塀）

- 所在地：小樽市祝津3丁目63番地
- 問合せ先：小樽貴賓館（TEL 0134-24-0024／見学には入館料が必要です）
- 休館日：年末年始



あおやまとめきち
青山留吉は明治中期に活躍した後志有数のニシン漁家で「祝津三大漁家」の一人にも数えられた人物です。

青山家は祝津の海岸線に一大漁場建築群を建設し、明治後期以降、周辺のニシン漁が次第に衰退していく中、2代目の政吉、娘婿の民治の代まで依然として漁業経営を続け、大正に入る頃には資産家として名をはせました。

旧青山家別邸は、大正7（1918）年から工事に取り掛かり、大正12（1923）年に完成しました。主

屋は入母屋造棧瓦葺、木造平屋建てで、東北に2階建の離れがあり、南正面の東西に主玄関と脇玄関を対称に配置しています。室内は春慶塗や銘木を用い、和・洋の意匠が部屋毎に違えて見られるなど、内外ともに豪邸としての風格を示す贅を凝らした造りになっています。現在、「小樽貴賓館」の一部として一般公開されています。

なお、留吉の代に建設した元番屋と蔵の一部は、「北海道開拓の村」（札幌市）に移築保存されています。



【写真】1 旧青山家別邸外観 2 牡丹の間 3 百畳敷の大座敷